

大規模工事にも対応

日本道路・所沢サンロードの上武アスコン

日本道路・所沢サンロードJVは、群馬県太田市の上武アスコンを建て替え、25日に火入れ式を開いた。木村正一太田市副市長や久松博三日本道路社長、奥野浩所沢サンロード社長ら来賓・関係者合わせて約40人が参加した。

更新前のプラントは46年が経過して老朽化が進んでおり、安全・環境・能力面を向上させることで地域により貢献できるようにすることを目的に建て替えた。新しいアスファルトプラントの1時間当たりの合材製造能力は120トで、再生合材を製造するための加熱乾燥能力は1時間当たり60トとなっている。

サイロは従来の100ト1本から120トと140トの2本に増やし、最大保管容量を増加することで大型工事にも対応可能な工場とした。サイロには無人出荷装置を付加しており、顧客の利便性を向上するとともに、従業員の長時間労働や夜間・休日出勤も抑制できるようにした。

施設のレイアウトを見直しヤード内の導線を整理することで、ドライバの利便性や施設内の安全性も向上させた。粉じん・騒音対策やCO₂削減など環境にも配慮した設備となっており、清掃効率も改善したため作業員の労働環境改善も期待できる。

式典であいさつに立った久松社長は「事業活動を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、自然災害などの緊急

時の対応拠点としての機能を向上させ、地域に根差した工場として運営していく」と語った。

所在地は太田市新田反町町174-

1。

